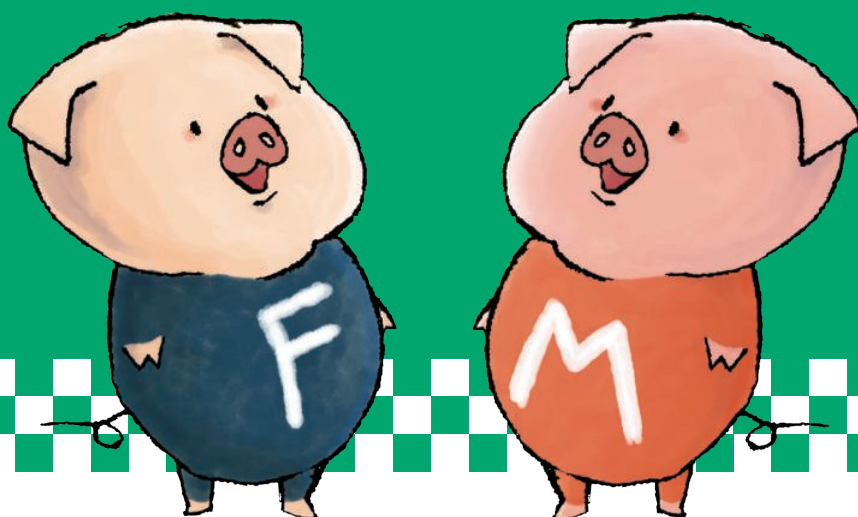




豚トキソプラズマ病と 動物用フリートミン[®]



トキソプラズマ病予防剤

動物用フリートミン[®]散20

トキソプラズマ病予防剤

動物用フリートミン[®]散50

豚トキソプラズマ病について

豚トキソプラズマ病とは

経済的打撃の大きい人獣共通感染疾患

豚トキソプラズマ病は *Toxoplasma gondii* (トキソプラズマ・ゴンディ) という細胞内寄生原虫の感染によって罹患する疾病で、届出伝染病であり人畜共通感染症にも指定されています。トキソプラズマはネコ科動物が終宿主であり、ネコ科動物の糞便から排出されるオーシストが主要感染源です。罹患した豚は死に至ることもあり、死に至らない場合でも屠場で感染が確認された場合、屠肉は全廃棄処分となるため、経済的打撃は非常に大きいものとなります。

豚トキソプラズマ病の症状

症状が顕著に現れる急性症。症状が現れない慢性症。

● 急性症

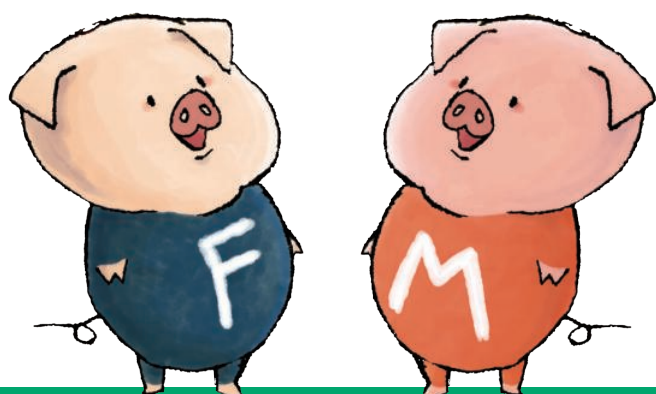
発熱(40~41.5℃)し、水は飲みますが食欲不振・元気消失となります。また水様の鼻汁排泄、眼結膜の充血や目やにが出て、便秘または下痢となり、咳などの呼吸器症状を呈します。病状が進行すると、うっ血性の紫斑(チアノーゼ)が体表に表れ、呼吸困難・起立不能となり死亡することもあります。子豚によっては、震えなどの神経症状が見られることもあります。

● 慢性症

感染していても通常は目立った症状はありませんが、発育遅延の原因となることもあります。トキソプラズマは豚の体内でシストと呼ばれる休眠状態で生き続け、気候の急変やストレスなど免疫力が低下すると発症する日和見感染となります。

● 妊娠中

母豚が妊娠中に感染すると、トキソプラズマは胎盤を通じて胎仔に感染し、死産・流産になる可能性があります。また、生存しても発育遅延となることが多いようです。

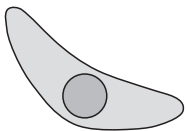
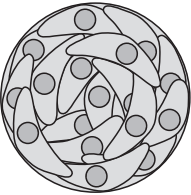
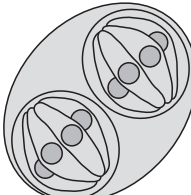




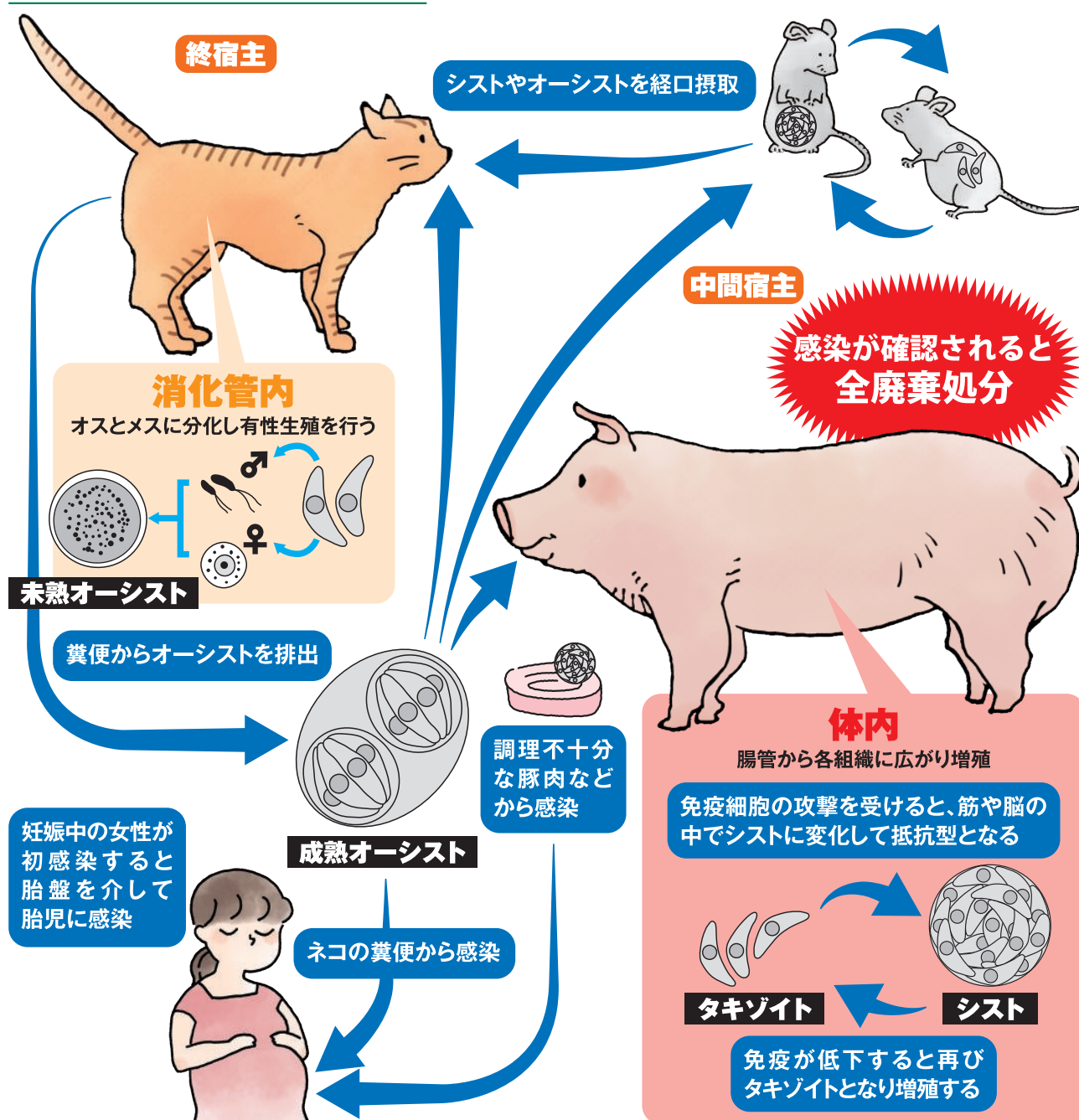
トキソプラズマの生活環

トキソプラズマ原虫の主な形態

トキソプラズマ病を理解する上で重要な3タイプ

タキゾイト(増殖型)	シスト(抵抗型)	オーシスト
 細胞内で増殖する形態	 免疫システムに抵抗するため、原虫が集合し硬い殻に閉じこもった状態	 ネコ科動物の腸内で有性生殖された後、糞便から排出される形態 外部環境からの抵抗性が強い

トキソプラズマの生活環イメージ



フリートミン[®]散について

特長

- トキソプラズマ病に対し、特異的に効果を表し、優れた予防効果を有します。
- 主成分のスルファモイルダプソンは安全性が高く、副作用もほとんど報告されていません。
- 要指示薬ではありません。

成分・性状

- ・ 動物用フリートミン[®]散20：本剤1g中に、スルファモイルダプソンを20mg含有する黄緑色～緑色の散剤
- ・ 動物用フリートミン[®]散50：本剤1g中に、スルファモイルダプソンを50mg含有する黄緑色～緑色の散剤

用法・用量

- ・ 通常1日1回体重1kg当たり、スルファモイルダプソンとして下記の量を少量の飼料に混じて経口投与する。
- ・ 豚：2.5～5.0mg
 - ※ 動物用フリートミン[®]散20 本剤として125～250mg
 - 動物用フリートミン[®]散50 本剤として50～100mg

効能・効果

- ・ 豚：トキソプラズマ病の予防

使用上の注意

1. 本剤は効能・効果において定められた適応症の予防にのみ使用すること。
2. 本剤は定められた用法・用量を厳守すること。
3. 本剤は獣医師の指導の下で使用すること。
4. 本剤は「使用基準」の定めるところにより使用すること。

注意：本剤は医薬品、医療機器等の品質、有効性及び安全性の確保等に関する法律第83条の4の規定に基づき上記の用法及び用量を含めて使用者が遵守すべき基準が定められた動物用医薬品ですので、使用対象動物（豚）について上記の用法及び用量並びに次の使用禁止期間を遵守して下さい。

豚：食用に供するためにと殺する前5日間

5. 本剤は過剰にわたる連続投与を避けること。

包装形態

- ・ 動物用フリートミン[®]散20 20kg クラフト袋入り
- ・ 動物用フリートミン[®]散50 10kg クラフト袋入り



トキソプラズマ病に対する治療・予防効果

トキソプラズマ人工感染豚におけるスルファモイルダプソンの治療効果

区分 臓器	SDDS* ¹						SMM* ²	感染対照豚		
	15mg/kg 7日間投与群		30mg/kg 7日間投与群		30mg/kg 4日間投与群		60mg/kg 7日間投与群			
	No.1	No.2	No.1	No.2	No.1	No.2	No.1	No.1	No.2	No.3
脳	×	×	×	×	×	×	●	●	●	●
横隔膜	×	×	×	×	×	×	×	●	●	●
肝臓	×	×	×	×	×	×	×	×	●	×
腎臓	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×
脾臓	×	×	×	×	×	×	×	×	●	×
肺	×	×	×	×	×	×	×	●	×	●
膵臓	×	×	×	×	×	×	×	×	●	●
リンパ節	×	×	×	×	×	×	×	●	×	●
心筋	×	×	×	×	×	×	●	●	●	●
肋間筋	×	×	×	×	×	×	●	●	●	●

×:トキソプラズマ原虫の検出なし ●:トキソプラズマ原虫の検出あり

(社内資料)

*1:SDDS=スルファモイルダプソン *2:SMM=スルファモノメトキシン

トキソプラズマ原虫を人工感染させた豚で、40℃以上の発熱などを呈した発症豚（人工感染3日後）に対しスルファモイルダプソンあるいはスルファモノメトキシンを筋肉内投与した。スルファモイルダプソン投与群では、3～4日で症状が消失し、すべての組織で原虫の検出は認められなかった。

トキソプラズマ自然感染に対する動物用フリートミン®散の予防効果

SDDS* ¹ 投与量 (mg/kg)	供試豚数	試験終了時のHA抗体		
		陰性	擬陽性	陽性
1.25	32	30	1	1
2.5	116	113	0	3
0(対照)	182	122	9	51* ²

*1:SDDS=スルファモイルダプソン *2:うち2例はトキソプラズマ病により斃死した

(香川県西部家畜保健衛生所他)

トキソプラズマ抗体陰性豚を用い、動物用フリートミン®散20を62.5～125mg/kg/日（スルファモイルダプソンとして1.25～2.5mg/kg/日）となるよう90～98日間経口投与し、HA抗体価を測定してトキソプラズマ感染の有無を判定した。その結果、トキソプラズマ病に対して優れた予防効果を認めた。なお、増体量でも投与群は対照群より優れていた。

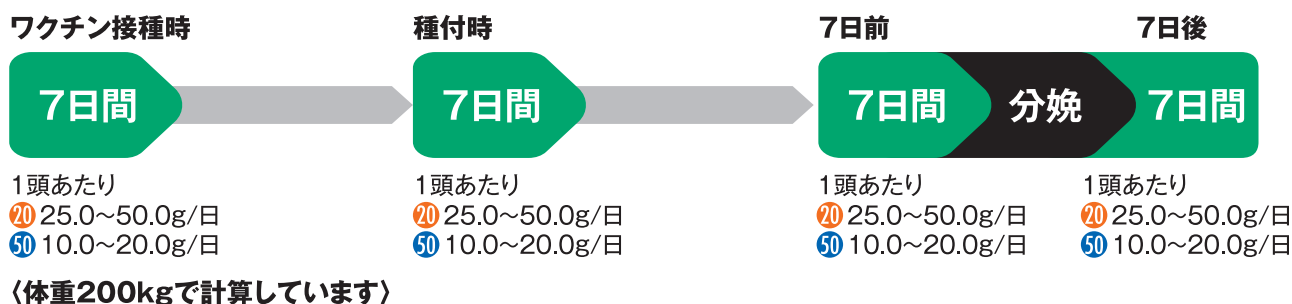
豚トキソプラズマ病予防プログラム

各時期での標準的な体重と飼料摂取量を元にした参考例

集中投与(スルファモイルダプソンとして2.5~5mg/kg 体重/日)
連続投与(スルファモイルダプソンとして2.5mg/kg 体重/日)

繁殖豚

【集中投与】飼料に対して
・20 動物用フリートミン®散20=0.5~1.0%添加
・50 動物用フリートミン®散50=0.2~0.4%添加



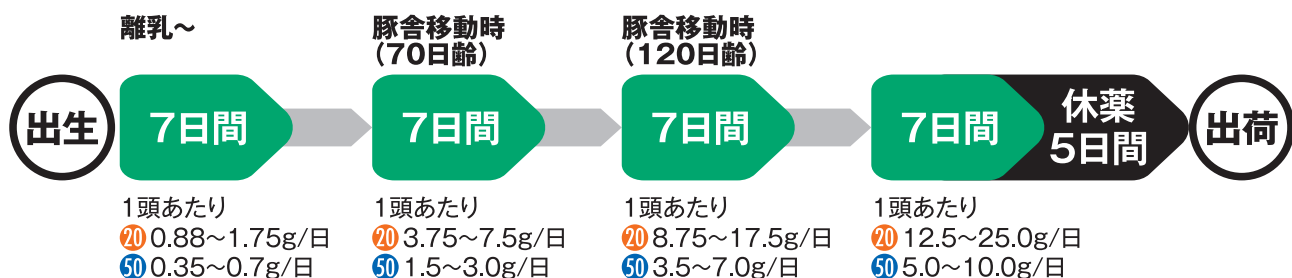
【連続投与】飼料に対して
・20 動物用フリートミン®散20=0.5%添加
・50 動物用フリートミン®散50=0.2%添加

- POINT**
- 母豚にとって分娩時はトキソプラズマが最も動きやすい時期です。
 - 初産豚では子豚への胎盤感染が極めて高い確率で起こると言われています。
 - 母豚は、分娩時期以外の場合(ワクチン接種前など)でも、トキソプラズマ病のクリーニングをおすすめします。
 - 春先及び秋口の季節の変わり目は、トキソプラズマが活動しやすいと言われており、この時期での一斉投与をおすすめしています。

連続投与を行う場合は、週余にわたる連続投与は避けてください。(1週間続けた後に休薬日を設けてください)

肥育豚

飼料に対して
・20 動物用フリートミン®散20=0.2~0.4%添加
・50 動物用フリートミン®散50=0.08~0.16%添加



- POINT**
- 母豚と同様に、季節の変わり目などのストレス負荷がかかる時期にも投与してください。

連続投与を行う場合は、週余にわたる連続投与は避けてください。(1週間続けた後に休薬日を設けてください)

注) 本剤の使用に際しては、クラフト袋に記載された、使用上の注意などをよくご覧ください。



投与早見表(100頭あたり)

動物用フリートミン®散20		体重 (kg)	動物用フリートミン®散50	
体重1kgあたりの スルファモイルダプソン(SDDS)の投与量			体重1kgあたりの スルファモイルダプソン(SDDS)の投与量	
SDDS 2.5mg/kg	SDDS 5mg/kg		SDDS 2.5mg/kg	SDDS 5mg/kg
63g	125g	5	25g	50g
125g	250g	10	50g	100g
250g	500g	20	100g	200g
375g	750g	30	150g	300g
500g	1,000g	40	200g	400g
625g	1,250g	50	250g	500g
750g	1,500g	60	300g	600g
875g	1,750g	70	350g	700g
1,000g	2,000g	80	400g	800g
1,125g	2,250g	90	450g	900g
1,250g	2,500g	100	500g	1,000g
1,375g	2,750g	110	550g	1,100g
1,625g	3,250g	130	650g	1,300g
1,875g	3,750g	150	750g	1,500g
2,125g	4,250g	170	850g	1,700g
2,500g	5,000g	200	1,000g	2,000g

注1) 値は、それぞれ製剤として100頭あたり1日の必要量(g)を示します。

注2) トキソプラズマ病の予防として、1日1回体重1kgあたり、スルファモイルダプソン(SDDS)として2.5～5mgを飼料に添加して経口投与します。

boh 物産アニマルヘルス

販 売

物産アニマルヘルス株式会社

大阪府大阪市中央区本町2-5-7